

木材利用の活動報告

留萌産トドマツの移出の可能性を探る

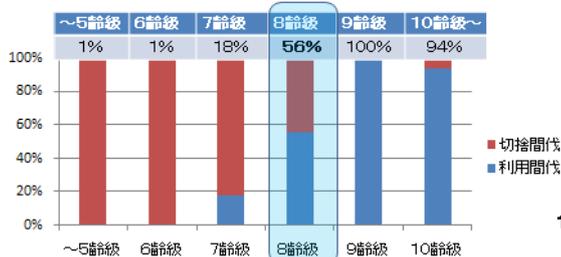
留萌振興局 森林室 齊藤 斉

取組の背景

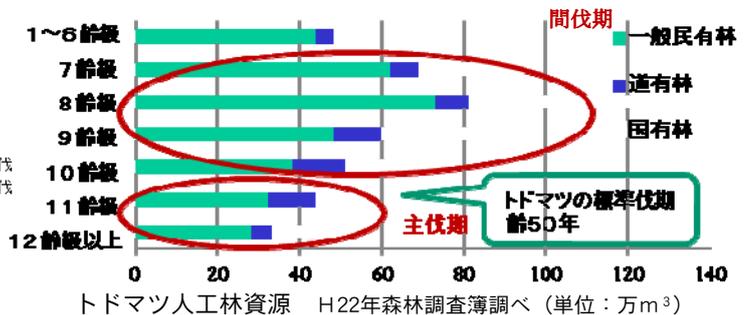
- ・ 8 齢級以下の間伐の大半が切り捨て間伐であり，利用間伐への移行が必要
- ・ 今後，トドマツ資源の充実に伴い，素材生産量の増加が予想される

○安定供給が可能な立木蓄積  
留萌管内トドマツ人工林  
立木伐採可能量 → 478万m<sup>3</sup>  
(内訳)  
間伐期 7～10 齢級 378万m<sup>3</sup>  
主伐期 11 齢級以上 100万m<sup>3</sup>

留萌管内の一般民有林人工林の利用間伐の状況



資料：林務課造林係調(H21)



現状

- ・ 留萌管内で地域材が利用されていない！

◎管内の針葉樹素材  
生産量77千m<sup>3</sup> (年間)

管内消費

☆管内の製材工場 1社  
チップ工場 1社

管外移出

他の素材63千m<sup>3</sup> 宗谷管内・上川管内へ  
パルプ材は苫小牧へ出荷

☆製材向け素材消費量は 1千m<sup>3</sup>  
パルプ材向けが 13千m<sup>3</sup>

大半が管外に出荷  
各林業事業  
体が運搬



管内消費を創出するためには道内外の需要確保が急務

取組の内容と成果

- 国有林，道有林，一般民有林の共同による出荷体制の検討
- 道内外へ留萌のトドマツを出荷拡大が可能か検討
- 道外の北洋エゾ・トド流通・加工の先進地を視察・調査

普及課が中心となって  
コーディネート



留萌には3万トン級の貨物船が接岸可能な港がある

富山県へ留萌産トドマツ移出を探る



訪問先で意見交換

成果

- ・ 管内の林業関係団体が共通の課題を認識するようになった
- ・ 道内外へトドマツを出荷する課題が明らかになった
- ・ 管内の林業関係団体が共同で販路拡大に取組むための足がかりが出来た



富山県伏木富山港

今後の課題と展開

- ・ 北洋材やホワイトウッドとの価格差
- ・ 木材の安定供給
- ・ 素材の品等ごとの選別と供給
- ・ 船による運搬コスト

今後の展開

- 所管を超えたロットの取りまとめ方法を検討する
- ・ 国有林，道有林，一般民有林など共同による出荷体制の構築
- ・ 素材の安定供給ができる体制づくり
- ・ 留萌管内及び管外への販路拡大に向け，各関係体との協議